

他校の試合に鋭い視線を送る海星学院の選手たち



個人戦へ切り替え集中

室蘭・海星男子 テニス最終調整

【長野】全国高校総合体育大会(インターハイ)テニス競技に出場している室蘭海星学院は4日、長野県松本市内で午前と午後、練習試合などを実施。5日に始まる個人シングルスに向け、小笠原陸選手(3年)、池田蓮選手(2年)らが最終調整を行った。男子シングルスには128選手がエントリー。初戦の相手は小笠原選手が和歌山2位の選手、池田選手は神奈川6位と顔を合わせる。(野田篤志)

全国高校総体

団体戦敗退から一夜明け、選手たちは気持ちを切り替え調整。日中の気温は35度を上回る猛暑の中、九州の強豪校と練習試合を重ね、精神的に汗を流した。菊地竜平総監督は「暑かったが、小笠原や池田、ダブルスに出場する松田空(2

年も集中している」と話した。

団体戦後、菊地総監督は選手一人一人と宿舎で面談。同シングルスで敗れてしまった小笠原選手について「進路にも影響する。個人戦で結果を出すしかない」というのは、彼が一番理解している」と、エースの奮起に期待した。

チームに帯同し、ただ一人出場がない1年の鈴木央祐選手。団体戦のサブメンバーだったため試合に出る機会はなく、練習の準備や選手のサポートを精力的にこなす。

「早くこの舞台で戦いたい」。大会中はチームのマネジャー的な役割に汗を流す傍ら、全国から強豪が集まるコートに熱い視線を向ける。

団体戦に敗れ、悔しそうな先輩たちの姿を目に焼き付け、「来年は自分がここで戦いたい。今回かなえられなかった(団体戦)日本一を成し遂げたい」と意欲を見せた。